

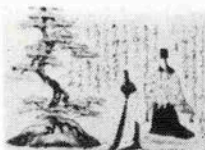
KOBE MODERN CULTURE

美術



★ニューヨーク・パブリック・ライブラリー所蔵「日本絵画名作展」

4月12日(土)～5月24日(日)
神戸市立博物館 一般7000円 大
高生5000円 中小生3000円



松風村雨
「絵本」
というユ
ニークな
視点から
捉えてい
る。三十六歌仙やおとぎ草
子、風俗画など現代でもな
じみ深い題材をとりあげ、
とても親しみやすい内容に
なっている。収集当時こう
いった絵入り本はあまり注
目されなかったため、現在
の日本ではなかなか見るこ
とのできない、貴重な作品
が多いのも大きな特色であ
る。

★白鶴春季展 「東洋の美術」

3月14日(土)～6月7日(日)
白鶴美術館 大人6000円 大高生
4000円 中小生2000円



五彩魚藻文蓋(明時代) 倉時代)
を展示し
て。それ
に因ん
で講演会
も催される。5月3日 13
時—文学博士、小島憲之
氏「日本文学にみる漢語的
表現」 5月24日 13時半
—奈良大学講師、塩出貴
美子氏「高野大師行状図画
の系譜」。



音楽

★小山実稚恵ピアノリサイタル

4月10日(金) 19時 神戸文化ホ
ール全席指定席2500円



小山実稚恵
ピアノリサイタル
位入賞



演劇

★文学座公演

「華岡青洲の妻」

4月23日(木)～25日(土) 18時15分
26日(日) 13時半 神戸文化ホ
ール 一般3000円 神戸労働会
2800円



華岡青洲の妻

天の初年、紀州の蘭方
医、華岡青洲は乳癌の麻酔
薬の研究に没頭していた。
そして人体実験になった時
青洲の母、於雛はわが身の
提供を
申し出
た。そ
れを聞
いて嫁
は我こ
そがと
激しく
迫る。美
しうは
ずの犠
牲的精
神も、
二人の
間では
凄まじ
い姑と

彼女の魅力は、あるときは
大らかで生氣にあふれ、ま
たあるときは繊細で、情趣
豊かな音色をかし出すと
ころだと言われる。
今回はシヨパン以外の曲
も演奏されることになって
いる。プログラムはシェー
ベルト「ピアノソナタ第13
番」シヨパン「ピアノソナ
タ第3番」リスト「ピアノ
ソナタ」。

★劇団ふおるむ春公演

「うしろの正面だあれ」

4月18日(土) 14時 18時半 19日
(日) 13時 ビックシアター 一
般2000円 中高生1000円



劇団ふおるむ

ケンカの絶えないハイミ
スの姉妹とボケ老人の家庭
に、妻に先立たれた独身男
性が突然あらわれる。
彼は思ってもいないのに
プロポーズに來たのだと勘
ちがいされ……。四人の間
で交さ
れる不
理な
会話の
中、女
性の深
層心理
を鋭く
描き出
した作
品。何
げない
日常に
忍びよ
る、現
代人の
孤独と
狂気。作・別役実
理ドラマである。

★中年ちゃんぼらん
7月7日(火) 18時半 神戸国際会議場メインホール 一般2800円 学生2200円

昭和五十二年二月より十二月まで日経新聞に連載され好評を得た小説の舞台化あるサラリマン夫婦を主人公とし、子供達との日常戦争を中心に現代社会における人間たちの悲喜交々を軽妙の笑いと涙で描くホームコメディである。
不器用にも楽しく生きようとする中年男女に捧げる



「中年の人たちのために」

応援歌——。市民の立場から現代を垣間みる「田辺節」を、大阪の新劇「関西芸術座」による、生粋の大阪弁芝居でお届けする。
田辺聖子原作、新屋英子脚色、道井直次演出。



音楽

- ★春のコンサート
北浦洋子・広岡隆正・沢木節子
3日(金) 19時 神戸文化ホール 2000円
★朝比奈千足・サロコンコンサート
11日(土) 18時 神戸ポートピアホテル 8500円
★吉岡美恵子フルトリサイタル
4日(土) 18時半 神戸文化ホール 3000円
★吉幾三リサイタル
23日(木) 18時半 神戸文化ホール 3700円
★ブルーノ・レオナルド・ゲルバ
10日(金) 19時 アルカイックホール S5000円 A4000円 B3000円
★小林明子リサイタル
28日(火) 18時半 神戸文化ホール 3300円
★アルフィコンサート
14日(火) 15日(水) 18時 神戸文化ホール 3500円
★長田悠希コンサート
18日(土) 14時半 神戸文化ホール シーガル 2000円



舞踊

- ★貞松・浜田バレエ団公演
「眠れる森の美女」
3日(金) 18時 神戸文化ホール A4000円 B3000円
★ケイコフジダンスカンパニー
20日(月) 18時半 ルナホール 4000円



演劇

- ★浪曲名人会
30日(木) 13時 国際会館 3000円
★「こどもステージ」
「赤ずきんちゃんの森の狼たちのクリスマス」
2日(木) 14時半 ビックロシアター 大人2600円 子供2000円 親子4000円
★松竹新喜劇
15日(水) 13時 17時半 アルカイックホール 特等席5000円 一等席4000円 二等席3000円
★芦屋ファミリー劇場
「ニルスのふしぎな旅」



映画

★人間を問う「プラトーン」
4月中旬より朝日会館にてロードショー
大人1200円 学生1000円 大・高生1300円 中学生1200円

新兵フリリスが配属されたのは、殺すことが現実だと言いつける冷酷・非情な鬼軍曹バーンズが隊長、そして人間性を失うまいとするエリ阿斯を班長とする最前線の戦闘小隊。考え方も個性



マーチン・シーン

が演じる「プラトーン」をお見逃しなく。
★この映画のチケットを5名様にプレゼント。希望者は本書に住所・氏名を明記。神戸っ子「朝日」係へ。



古典芸能

- ★市民寄席「桂木朝雄演会」
11日(土) 18時半 ルナホール 2500円



映画

- ★ビートルズ復活祭
1日(水) 11時 神戸文化ホール シーガル 1600円
★市民映画劇場「ふたりの駅」
23日(木) 24日(金) 18時半 25日(土) 14時 神戸文化ホール シーガル 8000円



美術

- ★県民ギャラリー
伊丹美術協会展 4/3/4/8
芦屋市書道協会役員展 4/10/4/15
電野市美術協会展 4/17/4/28
★県民アートギャラリー
関西一陽展 4/1/4/5

松月堂古流いけ花展 4/10/4/12

翠悦会和絵展示会 4/18/4/19

岡村雄風画書作展 4/24/4/26

正筆会善華展 4/28/4/30

★和紙ちぎり絵「虹展」
19日(日) 21日(火) 神戸国際展示場 入場無料

★サンパル市民ギャラリー
見夢齋治展 4/3/4/8

東光会展 4/10/4/15

魚崎清流室作陶展 4/17/4/22

神戸まつり協賛企画展 4/24/4/5/6

★サンパルミニギャラリー
オランダフェア写真コンクール入賞作品展 4/8/4/10

千鈴硝子展 4/17/4/22

★香雪美術館
室町・桃山の美術展 4/1/4/5/17

★つかしんホール
アメリカ・コンボ・アート 4/10/4/26

★大丸美術館
ヤマガタヒロミチ展 4/2/4/7

川島政則ステンドグラス展 4/9/4/14

吉本正陶器展 4/16/4/21

京の古道具展 4/23/4/28

これは一九八六年のカヌヌ映画祭でグランプリを取った。デ・ニーロとジェレミー・アイアンズの主演。デ・ニーロは「タクシー・ドライバー」「レイジング・ブル」その他で御存知。いっぽうジェレミーは「ニジンスキー」と「フランス軍中尉の女」に出てはいるが馴染みはうすかるう。私はこのひとのニューヨークでの舞台「リアル・シング」を現場で見て、いい舞台俳優だとその夜あらためて感心した。

「ミッション」とはヤソ教の映画。映画は一七五〇年

■CINEMA試写室

淀川 長治

映画評論家

『ミッション』と オーキアラコオ

ごろの大時代劇。かかる映画を作るイギリスに感心もする。もちろん日本も名僧の伝記を映画化はしているがとにかく「ミッション」は男ふたりの地味な映画。惚れたはれた映画初めの五分くらい。あとは水と山と男だけの映画。ひとくちに申せばジェレミー・アイアンズ扮するガブリエル神父が南米奥地にジュリアン神父に代って宣教に。ジュリアンは土民に捕えられ十字の柱にしばられ大瀑布イグアスから流されてしまう。

映画の始まりはゴーゴーとどろくイグアスの壮観。

ここに十字架が落ちてゆく。人がいわえつけられている。「ミッション」はこの言うならばこのひとみ、ごくうの洗礼のショックからスタートする。

さてここに奴隷商人ロドリゴ(デ・ニーロ)が妻と自分の弟が関係したことを知り怒りのあまり弟を殺す。かくてざんげとし、よくざい求めガブリエル神父のあとを追う南米奥地のイグアスの川上の大自然児ともいえるガラニー族の集団村へ。

映画は二時間六分のカラー。イギリス映画はそもそもが記録映画タッチで有名となった国である。「アラン」「描かれた人生(レンブランド)」「エレファント・ボイ」すべてこれらのイギリス映画は記録映画タッチで輝いた。リアリズム映画とはひとかわ違う。まさに実写スタイルなのだ。「ミッション」がそれを思わせる。図書館の古い歴史書物のカラー図をひらいているうちにそれが映画となって迫ってくる感じだ。

さて「ミッション」とは宗教伝道てんどうの集団しゅうだん。話は古く一五四〇年にイグナチオが創始した異教世界の布教活動なのだ。ガブリエルとロドリゴこのふたりの神父の苦闘。この二人の男同士の愛。宗教のきびしさ。ついにこのふたり土民の生き神となり立派な教会を建てる(ここらは映画はタイムをはぶいてすつとばしていた。それで土民たちが力あわせて大きな教会を築いてゆくところはすべてなし。だからここをそれを省略してデIFOオルメされた教会を意識せぬとここはすこしおかしく思える人もあろう)。

さてこの地をスペインとポルトガルが奪い合つての戦いとなり神父ふたりは彼らのぎせいとなつてゆく。地味な映画であるが面白い。

プロデューサーのバットナムは「炎のランナー」「キング・フィールド」。ちかの製作現場のプロデューサーのフェルナンド・ギアは「赤いテント」のプロデューサー。「赤いテント」は南極探検でアムンゼンを見捨てて帰ってしまったノヴィル將軍の悲劇。

監督が「キリング・フィールド」のローランド・ジョ
 フィ。そしてこの映画のオリジナル脚本がロバート・ボ
 ルト。このボルトは劇作家としてまさに第一級。彼の劇
 を映画化したのが「わが命つきるとも」。ヘンリー八世の
 私生活をいさめたばかりに死刑にされた学者の悲劇。
 なおこのボルトは「アラビアのロレンス」「ドクトル・
 ジバコ」の映画脚色にも当たっている。そして……キャメ
 ラが「キリング・フィールド」のクリス・メンジェス。

イグアナの滝に落ちてゆく神父



うかなあ、み屋さんの二階に日曜ごとに二人の西洋人の
 尼さんがオルガンをはいてイエス物語を私たちに聞かせ
 たものだ。たたみ敷きの日本間十畳。私は毎週行った。
 理由はかえりに紙ぶくろに入れたビスケットを尼さんが
 くれるからだ。やがて私も中学生となった。兵庫のその
 旧制三中に英会話の先生が西洋婦人。ジス・イズ・ア・
 ブックとかいろいろと教えられ「もっと大きな声で」と
 いう日本語がこの西洋人の先生うまく言えぬ。そこで

ロドリゴ神父（ロバート・デ・ニーロ）



音楽がエンニオ・モリコーネ。

まづこれだけ揃うとグラン・プリはどう考えても当ぜ
 んであろう。ところで映画というものはイエズスの古き
 宗教伝道を今に私たちの目前に知らせてくれる。思えば
 私の子供のころヤソ教というその信者のことを大正初め
 （一九一〇年すぎ）までは「あいつヤソやでエ」などと
 かげぐちきいたものだ。私のそのころ大正五年（一九一
 六）ごろ兵庫の西柳原そのエベっさんのちかくに野間と

「大きな声で」が、いつのまにか「オーキヤラコオ」と
 言う耳にこの西洋人が聞く日本語の発声をそのまゝいっ
 も言うようになった。この先生の時間は黒板のまえで
 「ハイ、オーキヤラコー」。そして私たち中学一年生も
 そこで声張りあげて「ジス・イズ・ア・ペン」。思えば
 大正の初めこのように西洋婦人が英語を教えにはるばる
 日本にやって来たのだなあ。「ミッシェン」はそのよう
 な西洋人の思い出さえもよみがえらせた。

SPECIAL MESSAGE

神戸百店会だより

OPEN

★「クッキーの館」で

できたての味を
神戸風月堂は、「レスポ
ワール」の誕生10年を記念
して、3月21日、元町本店
西隣に「クッキーの館」を
オープンさせた。内部には



「クッキーの館」レスポワール

お菓子のアトリエもあり、
まろやかな出来たての味を
その場で提供してくれる。
クッキー、アイスクリューム、
コーヒーマスタード、
で、レスポワールセット
(3種類のアイスクリーム
クワッサン、コーヒーマ
スタード)といった組み合わせも楽し
める。

GRAND DISPLAY

★87ミキモト

春の特別展示会

春と輝きの粋を結集した
ミキモトならではの逸品エ
クセレント・コレクション
をはじめ、麗しいジュエリ
ーの数々を集めたミキモト
春の特別展示会が今年も3
月29日に催された。

今回のテーマは、「花」
咲き匂う光彩のフォルム。
季節の中で思い思いに咲く
花をそのまま映したような



エクセレント・パール

色鮮やかなジュエリーが楽
しめる。また来場された方
に特製アルバムのプレゼン
トも。大阪店では4月3日・
4日・5日に催される予定。



MATERNITY

★ファミリア第8回

マタニティーセミナー

3月10日、ファミリアが
2カ月に1回定期的に行な
っているマタニティーセミ
ナーが元町の中山ビルで開
かれた。今回のテーマは
「より美しいマタニティー
ライフを楽しむには」とし
て1部が、「インナーの選び
方・ナイティのフロアシ
ョー」で、ワコールのチー
フデザイナー小森尚子さん
を講師に迎え、2部が春夏
のマタニティーショーとい
う構成。

「育児に悩みのある方が
多く、核家族の為、自分自

ART

★神戸に生青窯を構えた

檀上豊の作陶展

美術陶磁器の淡洲堂主催
により、3月12日から17日
まで大丸前のたじま画廊に
於て神戸在住の陶芸家、檀
上豊さんの個展が開かれた



檀上 豊さん

身で選択しなければならな
い場合に役に立つ実践セミ
ナーです。お陰さまで好評
を頂いています。」とこのセ

楽しめるマタニティー
ファッション

ミナーの企画立案者でファ
ミリアのベビーコンサルタ
ントでもある植草さん。次
回は5月12日兵庫医大の朝
日稔教授を講師に迎え「赤
ちゃんを育てるのはだれ」
と題したセミナーが予定さ
れている。

■申し込みはファミリア本店
0321-2468まで

昭和30年に神戸に生まれ
立杭焼の市野弘之師匠に師
事、丹波に住み込んで5年
のち独立、61年には兵庫県
工芸作家協会展に入選して
いる。「もとはビジュアル
デザインを志していたので、
陶器デザインはシンプル
もさと実用性を兼ね備えた
ものを大切にしています。」
と檀上さん。その言葉ど
うり、作品は程よく洗練さ
れ、使う楽しみを覚えさせる。
おさえた色彩の上品さに加
え、ゴムのりで模様を作り
口ウメに似た草文が極だ
って目を引き、初日にもか
かわらずほとんどの作品が
売約済だった。



●感性のあるヘヤースタイルを
西野 順子 <あきら美容室>

MAESTRO

★ユーディ・メニューイン

田崎真珠を表敬訪問
世紀の天才ヴァイオリニストとして名の高い、ユーディ・メニューイン氏が田崎ホールでの演奏会の前日、3月13日にダイアナ夫人を伴って田崎真珠本社を表敬訪問した。

昨年70歳を迎え、世界各地で記念コンサートを開き、日本にも田崎真珠の招きで来日。旺盛な演奏活動をこなしているメニューイン氏は愛妻家としても有名で真珠加工室を見学中、常に夫人の足を気遣うなど思いやり深さが感じられるシーンがたびたび。ダイアナ夫人は、真珠の輝きに目を細めてご満悦の笑顔。見学後、お茶席に入り、日本の美を堪能された様子だった。

PRESENT CORNER



●神戸風月堂より

「クッキーの館」の試食券を3月21日、元町の風月堂西隣にオープンした「クッキーの館」レスポワールから試食券を10名様ペアでプレゼントします。できたてのクッキー、アイスクリーム、コーヒーをセットで召しあがってみてはいかが。まろやかな風味をお楽しみください。

●応募方法 ●葉書に住所、氏名、電話番号、希望する商品名を明記の上、神戸市中央区東町113-1大神戸ビル9F「月刊神戸っ子」神戸百店会プレゼント係までご応募下さい。4月20日消印まで有効です。当選者には神戸っ子から当選葉書を送、葉書を持ってお店まで、プレゼントを受け取りにお出かけ下さい。



●ローズあきらより
カット・プロウを

三宮本通りにある美容室、ローズあきらより、カット・プロウを2名様にプレゼント。春の風を受けヘアーもしなやかにスタイリングしてみませんか。ローズあきらなら、あなたの個性に合わせ、定評あるカット技術できめ細やかな仕上がりです。

TOPICS

●ファッションパークが協賛

している神戸ベストドレッシング大賞マリン'88の第1次予選の応募締切が目前。昭和62

年4月5日必着となっています。希望者は①全身・上半身

のカラー写真2枚(S60・61年撮影のものに限る) ②お洒

落・特技などの自己PR文(400字詰め原稿用紙2枚以内) ③身長、血液型 ④

⑤氏名、年齢、職業、住所、電話番号を明記の上、申し込んでください。〒650神戸

市中央区北野町1丁目2-171303「神戸ベストドレッシング大賞実行委員会」宛まで

078-1222-16604、

第2次予選は4月25日舞子浜のウェザリポートで。決勝戦参加のギャラリート(観客)の中からベストギャラリイ賞が選ばれます。

●4月12日、寝歌と唱歌を歌う会が田崎真珠ホールで催されます。出演は須磨ニュータ

ウン少年少女合唱団、神戸フ

ラウンズホール、関西歌謡歌

興会合唱団のみなどで、午後2時より開演の予定。入

場無料。

同ホールで5月30日には、地唄舞の松本尚時さんのリサ

イタルも予定されています。午後4時開演。入場料は4、000円、学生2、000円、落語家の桂春徳さん、上方芸能の木津川計さんめゲスト参加の予定。

★神戸の集いから

★「食」を通して

人とのふれ合い大切に
素朴なおかず作りを続ける
中川二葉の会が「第7回
おかず大集合ふれ合いの集
い」を、2月20日(金)神戸
経理専門学校で開いた。

「お母さんは、家族をもつと愛して、心のこもったおかずを作ってた下さい。」と主宰の中川みよ子さん。ゲストには伝承料理研究家の奥村彰生さんを始め、大阪昆布商工会中嶋輝浩、関西饅頭協会宮成介、日本昆布新聞社松尾常登、灘神戸生協井美智子、あまから手帖勢井由美さんを迎え、総勢250人の参加者に、用

意された100種類余の料理も、あつという間になくなる大盛況ぶりだった。

★「酒の道」を求めて

2月21日(土)午後5時から、三宮東急インで「酒を



正しく、美しく、カンバイノ

正しく楽しむ酒道王国、閣僚会議」が開催された。酒

専門誌「醸界春秋」の呼びかけで王国が誕生したので去年の6月。人口は、最近の酒飲人口増を反映してか、300人に迫る勢い「明るい飲酒」「日本にふさわしい酒の道」等について国王の柚木学さんを始め、土井芳子、浜西寿三郎、川端柳太郎、日下譲三各閣僚、国民代表は、高橋弘、須貝智子、黒崎勇氏らがデイスカッション。楽しく飲みなが

らの会議だった。

★ソウルと兵庫県が姉妹に

日韓親善の集いが、2月18日の夜、生田神社会館で開かれ、約200名がそこやかに新春の顔を合せた。

今年は、兵庫県民団側から親善に尽力のあった十人に、功労賞が出された。中井一夫、上田将雄、小池義人、望月美佐、中西勝、佐藤廉、内海都一、高田巖、山下裕之、宮永孝さんらが、朴民団中央本団長からその労をねぎらわれた。来年は、ソウル・オリンピックを迎える韓国へ、3月初旬、日韓親善の使節団がおもむき「ソウルと兵庫県の姉妹縁組」が決った。

ソウルの韓日親善協会から知事と市長と中井一夫さ



坂井元知事・チョゴリ姿の望月さん

んに感謝状が送られ、また功労賞が小池義人、望月美佐、佐藤廉、中西勝、宮永考さんに送られ、日韓親善は一段と深まった。

★延若丈と共に



宮崎会長と延若丈と共に

上方歌舞伎を愛する人々の、實川延若丈を囲む「神戸井筒会」(宮崎辰雄会長)が、第16回目の総会を、生田神社会館で開催し、約150名のファンが集った。

宮崎会長、森実勉さんらのあいさつの後、今年は、長唄「外記猿」を延若丈が藤間宗家の振付けで、酒脱さと品のよさを漂わせた素踊りを披露。

土井芳子さんの音頭で、乾杯。会場に延若丈を迎え、神戸室内合奏団のヴァイオリニスト○○○○さんの演奏も。豊かな雰囲気



中川先生(右端)と教室の皆さん

ぴっと・いん



★素敵な夜を演出します

北野坂のふもとに新しく誕生したチャールストンクラブは、お洒落なムーディスト・スペースだ。8売のウイスキーは、例えばホワイトホースなら1シヨット30gで300円。カクテルも種類が豊富で約100種。その上、料理が美味しいのだから申し分ない。フランス料理16年のキャリアを持つシェフが、本格的な料理を提供してくれる。フロアではライブ演奏に合せてダンスもめ楽しる。



お酒落空間へどうぞ

■ハンバーグ1500円・オニオングラタン900円・コース料理3500円
■北野坂FBIビル

2F 392-0551 / 平日6PM-13AM 日・祭10AM-年中無休

★異人坂花苑が華麗に変身



3階では懐石料理を

オープン。1階から4階まで趣向を凝らしたフロアが展開されている。1階はジェラートのネーペデラールナ。2階は昼はジェラートカフェ、夜はドリンクスボット。3階では本格懐石料理がお手頃価格で、また4階では肴と一品料理の他、寿司もある。言ってみれば「味の博覧会」。1・2階はミラノ感覚、3・4階はモダンな中に和食の雰

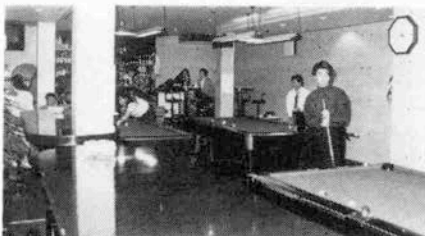
囲気のあるインテリアもいい。

■中央区中山手通1-4 Uライオン三宮ビル/異人坂花苑 392-7608
■ネーペデラールナ 392-0063

★もう、気分はハスラー

「グラス片手にビリヤード」そんな小粋な店が、2月14日鯉川筋にオープン。昼間は喫茶店(コーヒード250円)、夜はバー(1シヨット500円より)として、ビリヤードなしでも十分満足。ギリシヤ人のコックさんが作る料理もバラエティ豊かで味も本格的。

スタッフは若くて気さくなばかりで、気取らず楽しめる。



キュー片手にハスラー気分

しめるブルーバーだ。

■ブルーバー「ファーストエディ」
昼11AM-6PM ビリヤード
5男 600円 女 500円 夜6PM-15AM
男 800円 女 700円
中央区下山手通4 392-7033

●神戸うまいもん
とドリンキング

ブラッスリー

北野食堂

中央区北野町4丁目8-3
078-221-0168
平日11AM-3PM・5-10PM
土・日は3-5PM(ティ
タイム)もあり 月曜定休

欧風館の立ち並ぶ中で一きわ目を引くのが、大



「ふれあいのある店に」と西本店長

正浪漫漂う北野食堂だ。季節感を盛り込んだ和食をメインに、究極の洋食メニューやおふくろの味が楽しめる。厨房を守るのが女性コックというのも珍しい。盛りつけ等にも女性らしさが伺え、四季に応じたメニューでもてなしてくれる。「お客様との心の触れ合いを大切にして行きたい。」と、店長の西本さん。

■昼給ひるぎ1000円、あせ道のうけ9000円、カツレツライス9000円、ピフケンチ2500円など

★集まります、同人誌仲間

マンガ同人誌、ミニコミ誌、SF&アニメ・ファンジなどを一同に集めた、関西最大の同人誌即売会「コミックストリート」が4月29日(祝)、神戸国際展示場で開催される。



凝ったコスチュームで

参加スペースが千スペースという大規模なイベント

で、展示即売の他、ガレージ・キット・コーナー、マンガの主人公気分でのコスチュームプレイなど、いろいろ楽しめる。

★若杉光夫監督、神戸で同和啓発映画撮影



我が編集室で撮影が

きこえる」を撮影した。タウン誌に勤める主人公

の松村直子とその友人達

が、同和地区の出身であるために、差別を受けてしまう。と言った内容の作品である。(脚本・小林童雄)

若杉監督は、大分県別府市出身だが、京都帝大に学んだため、神戸とも馴染み深く、神戸の街を上手く生かした映像に期待したい。



このアトリエで開講

★貴方の香り
つくってみませんか
香りの家オランダ館では「香りのスクール」受講生を募集している。

自分の手で自分だけの香水をつくってみませんか。
受講期間/3ヵ月(6回)
受講時間/午前11時午後2時
場所/香りの家オランダ館中庭
右奥アトリエ
入会金/1万円
受講費/6千円(月額)
講師/香澤山本松子
申込先/神戸市中央区北野町2-15-10 香(33330)

★喇いてみよう、灘の酒
灘の酒の振興ビールールとして、4月18日(土)午後1時30分から4時まで、こうべ甲南ライブサロンにて「100人が喇きました」喇き酒大会が行われる。
招待者100名、特別招待者20名が、吟醸酒、純米酒、

本醸造酒、普通酒、原酒、

生酒の各部門別に優秀銘柄3種を決定する他、銘柄当て喇き酒により62年度喇き酒名人を1名選出する。

当日は桂文太が司会の他、酒にまつわる落語を披露、雰囲気盛り上げる。

★何か「妖怪」
ユニークな活動を続ける「レベル」の亀井澄夫さんが、4月11日(土)から3回毎週土曜日6時30分より、「妖怪講座」を開講する。

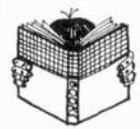


妖怪あずきとき

場所は阪急六甲山側の神戸学生青年センターで、日本各地に古くから伝わる様々な妖怪を、山の妖怪、水辺の妖怪、里の妖怪の3つに分けて、紹介、解説。また合わせて「妖怪新聞」も3度目の復刊をする。
●問い合わせ(078) 37114496

★朝食が楽しくなります
ヘクセンハウスオープンホテルの朝食はベーコンエッグという邱永漢氏のお嬢様が、お父さんを堪能さ

図書ガイド



「現代学生気質」
田口寛治

神戸大学教養学部教授の筆者は答案用紙に「うがき」を書かせることと有名である。そのうがき答案約2万枚の中から、60年代、70年代、80年代、それそれの若者像を浮き出させる「作品」を選出。それぞれの根本に流れるものが、実は「フツウの日本人」の顔であることを伝える、非常にユニークな現代若者論になっている。(神戸新聞出版センター112000円)

「淀川長治集私私が知った愛した監督とスタア」
淀川長治

本誌ではお馴染みの著者が、1950年代より現代まで、様々な媒体に書き綴った作品が、様々な本の宝庫にまとめられ、出版されることになった。
本誌は、その中でも特に、著者が知った、出会った映画人の思い出を集めた作品集で、本誌を読むこれらの人々の経歴とは違った側面が見え、大変に興味深い。(芳賀書店 22000円)

「きつろのきろく」
楠本 喬章
落語を本気で楽しもうと思うのなら、寄席で、実際に演じている者を前にしなくてはならない。しかし、寄席自体がほとんどなくなり、落語家が、自分の「芸」を披露する場所がなくなってきた本書は、昭和53年より、元町の風月堂ホールで、月に一回開かれる恋舞亭のパンフレットを再録したものである。百回を迎えた恋舞亭の芸を守ることに大変さ、難しさが読者に伝わってくる。(笑クリエイト社12000円)

■ こころの歳時記

伝統に新しさ 加味した セレモニーを

高橋 孟
(漫画家)

羽多 悦子
(彫刻家)

大谷 晃世
(大谷徳風社社長)



左より大谷社長／たかはしもうさん／羽多悦子さん（元町風月堂にて）

大谷 高橋孟先生も、先日お母さまが亡くなりましたね。

高橋 故郷が徳島でした。弟と一緒に母親は暮らしていたのですが八十八才で亡くなりました。

いやー一番、困ったのはお葬式に飾る顔写真。何と結婚記念の集合写真の中から選んだ(笑)あわてふためくと、どこにあるかわからんです。だから元氣な間にぼくは、カッコいい写真を撮して決めたかないかと思いましたよ。

大谷 羽多先生も、お母さまが？

羽多 ええ。私はいろいろ続きましてね。父が病気で寝込んでいたのが亡くなって、姉が交通事故にあい、母も看病から疲労で亡くなって、まだ親戚にもいろいろあって、大変でした。

その上、二紀会の鴨居玲先生や西村功先生のお母さまなど続きましたから、何かお葬式のベテランになって(笑)という手順でやるのやとよく呼び出されました。だから手順や準備のことがまとめて判るような冊子があるといひですね。

大谷 ええ、私共では、各宗派、神道、キリスト教それぞれありますので、冊子にまとめてあるのでぜひご利用下さい。

羽多 私の故郷は摂津の国の北の方で丹波に近い農家なので、お葬式も昔からの伝統的な、のほりを持って歩くような土葬なんです。

お友達が神戸から来て下さった

りします。前半は伝統的に、後半は霊柩車を呼んで火葬という両方のセレモニーで行いました。

大谷 そうですね。地域地域によって随分違いますからね。

羽多 でもお通夜やお葬式を通して、お寺の住職からいろいろ、初七日や、十日、四十九日、百日など仏様のおむらひ方やいわれを覚えていただけたことがとてもよかった。

高橋 そうそう、テレビでも丹波哲郎さんの「死後の世界」とか、細木数子さんの「先祖を祀れ」とかいわれるのを見ますが、若い人に沢山見てほしいですね。人間にとって「死」を考えるのは、生きている証やからね。

大谷 今日86才、41才、36才の方々の御葬式でして、順序通りにはいかないのが現代ですね。

高橋 そう、今年は世界の宗教会議が日本で開かれる。「平和」を考えて行くことは「生きる」時間がいかに大切かということですよ。

★徳真会へのご入会は、電話(078)5068へ★当会員は葬儀基本料金の1割引他特典が色々あります。

全葬連認定葬祭専門士資格取得者

株式会社 大谷 徳風社

代表取締役 大谷 晃世

全国葬祭事業協同組合

神戸葬祭事業協同組合理事

神戸市規格葬儀取扱指定店理事

本社／神戸市長田区長野通11-12

電話078-62110089

鈴蘭台支店／電話078-59215485

神戸・発見

PART 5

思いつきり ハピネス



森下悦伸

〈ラジオ関西報道制作部〉

カメラ／松原卓也

★ボクのONCE UPON A TIME
IN AMERICA

真新しい制服に身を包んだ中学生を見ると、甘酸っぱい青春時代を思い出す。肩口を吹き抜けてゆく埃っぽい風、木々の青っぱいにおいと透明感のない青空、それらが入り交ったエロティックな春のたたずまいの中で、ボクの古ぼけた黄色い青春は、もう一度、鮮やかに色を放つ。一流中学に入れなかった落ちこぼればかりを集めた学校に入学したのは1961年の4月だった。ラジオから流れてくる／ウォーク・ドント・ラン／を聞きながら、ボクは受験勉強に費やした2年間を振り返り、ぼんやりとした挫折感を味わっていた。しかし、小さな島国の、小さな少年の、そんな、ちっぽけな挫折感など、どこかに置き忘れたかのように、時代は大きく動いていた。

第35代アメリカ合衆国大統領に就任した、ジョン・F・ケネディは、この年の1月、南ベトナムに対し4,000人の特殊部隊派遣を決定、ベトナム戦争突入へのきっかけを作った。自由圏の旗手、正義の国、強く醜いアメリカが動き出した。しかし一方、強く醜いアメリカとは反対に、明るく、豊かなアメリカに魅せられた、ボクのような少年もいた。この年アメリカではプレスリーの／G・I・ブルース／が上映され、親たちのヒステリックな非難とはうらはらに、10代の女の子達はそのセクシーさに次々とノック・アウトされていた。デルシャノンの唄う／悲しき街角／は4週連続全米ヒット・チャート1位にランクされ、ボヴ・ディランがカーネギーホールで53人の観客を前にコンサートを開いた。ブライアン・ハイランド／ジョニー・ティロットソン／みんな素敵だった。青いサンダー・バー



PM 6° 52' ポートアイランド

ド。チョコレートがいっぱいのあったアイスクリーム。白い大きな冷蔵庫。レコードがすり切れたジューク・ボックス。タイアを焦がして走り去るホット・ロッド。鼻のあたまがツンと上を向いたボニー・テイルの女の子。光の海に浮かぶ夜のアミューズメント・パーク。2人で乗るメリー・ゴーランド。そしてコニー・フランシスの／ボーイ・ハント／は甘く切なく、ボクの心をくすぐった。アメリカの優しく素敵な香りは、遙るか太平洋を越え、アジアの片隅の、ちっぽけな島国に住む少年達にも届き始めていた。



PM 6° 10'

丸刈のニキビづらと、風呂敷に包んだ教科書、紺色のジャバラの制服と、駅から学校までの1キロを駆け足で通学するボク達を監視する教師達の、100メートルごとの叱咤、激励の声の中で、学園生活が始まった。／団塊の世代／の中の250人は、それからの6年間、男だけで過ごす事になる。

季節は春から、むせかえるような夏に変わり秋がきて、冬になった。友達が出来はじめ、本格的にボクの学園生活は始まった。



PM 6° 30'

子がホイ・ホイ・ミュージック・スクールで／パ
ケーション／を唄い／スーダラ節／はい／それま
でよ／と、植木等は無責任路線をひた走ってい
た。ツイストが流行し、ジェリー・藤尾の／遠く
へ行きたい／が旅情を誘った。団塊の世代は、し
だいに意識を持ち始め、社会のあちこちで新らし
い波を作り出していた。学生自身が企画、運営し
たコンサート／ジュニア・ジャンボリー／が東京
で開催され、昔ながらの歌謡界にしっかりと、楔
を打ちこんだのも、この年の事だった。

そして、日本のフォーク・ソングが産ぶ声をあ
げた。ボクは高校に進み、野球部に入学した。

ビーチ・ボーイズが日本にやって来た。196
6年の1月、前から5列目のチケットを手に入れ
たボクは、授業が終るのも、もどかしく、フェス
ティバル・ホールに駆けつけた。

白いコットン・パンツに、オレンジ色のストラ
イプ・シャツを着た、ブライアン・ウィルソン／
マイク・ラヴ／アル・ジャーデン達がまばゆい光
の中にいた。

A・K・G^{ガイ}のマイクで、アンプリファイセッド
された／サーフィン・USA／サーファー・ガ
ール／ファン・ファン・ファン／は、目も眩むばか
りの音の洪水となって、ボクの体内を駆けめぐ
り、やがて頭の中で形を変え、吸い込まれそう
な夏の日の入道雲になった。

そしてその日、ボクはカルフォルニアの紺碧の
空を想いながら、何度も何度も／サーファー・ガ
ール／を聴いた。◎

灰色の雲が低くたちこめる寒々しい、イギリス
の片田舎、リバプールでデビューした、ビートル
ズが2枚目のシングル／プリーズ・プリーズ・ミ
ー／をリリースし、全世界の若者達を席巻したの
は1963年、ボクが中学3年生になった時の事
だった。明るい太陽がさんさんと降りそそぐ、南
カルフォルニアの片田舎で、デビューした、ビー
チ・ボーイズも（同じ年の3月）／サーフィン・
USA／を大ヒットさせた。日本では吉永小百合
と橋幸夫が唄う／寒い朝／がヒットし、弘田三枝



PM 6° 45'

麻薬と失業と膨大な赤字財政に悩むアメリカ。ベトナム戦争から、いまだに逃れられないアメリカ。

でも、ボクは覚えている。

陽の落ちた、サンタ・モニカの浜辺を。

サンフランシスコの空に昇る坂道を。

灯がともりはじめた、ブロード・ウェイを。

傷ついてしまった、ボクのアメリカ。

もう2度と、昔の様にひかり輝くことは、ないかもしれない。戻れないから、美しいのかもしれない。

でも、ボクは知っている。

光がシャワーのように降りそそぐボクだけのアメリカは、バーボン・ウィスキーの氷の中で、いつまでも、色あせることなく、キラ・キラと揺れ続けている事を。

P・S

時々、ふと、遊園地に行きたくなる。それも、夏の夕暮、灯がともり始めた頃。空が茜色に変わり、星達が顔を見せ始める頃。遊園地は昼間とは、全く異った表情を見せる。湿った空気は、冷めたい風に追われ、逃げ場を失い、室外器のまわりで、渦をまく。遠くで、恋人達の笑い声が聞こえる。過ぎ去った、思い出が切り取られた写真のように、はつきりと、蘇える。そんな時、いつも、決して胸がキンと痛くなくなる。

ポートピア・ランド・イン・アメリカ。

あれから20年余りアメリカは、もう、すっかり変ってしまった。ジャン&デインが唄った、はじけるような青春も、恋人達が肩を寄せ合って歩いていた、オーシャン・ブルー・バードも幻のビック・ウエンズ・デーを待ち続けた、屈強な男達も／時代／という、あまりにも、無機質な流れの中に、陽炎のように、佇く消えていった。

■第11回神戸文学賞佳作作品

第一回

炎の彩管

矢口 耕一

絵／谷口和市

芝の神明町から増上寺境内へ向うゆるい坂道を、西洋人を載せた二人びきの人力車が一台、土の上に轍の跡をつけながら登っていった。後ろから車を押す恰好で、下駄ばきの青年がついてゆく。

明治十七年（一八八四）五月の朝のことである。昨日の雨で道の端に水が走っている。空はよく晴れ、立木の嫩葉が明るかった。

青年は歩きながら、ひと重睨のきつい眼で辺りを眺めていたが、車夫に声をかけて足をとめた。

その附近は芝山内と呼ばれる所で、雑木林とわずかな畑の間に、蘆茅き屋根の家がまばらな姿を見せていた。

「変だな、確かにこの道だと聞いたんだが」

彼は腰の手拭をとって汗をふいた。紺の単衣物の下に袖長の白襯衣を着こみ、ざんぎり髪に袴という書生姿である。

陽が高くなつて暑さは増したが、樹間を涼しい風が渡っている。透明な嫩葉の影が青年の素足の上でゆれていた。

色の黒い年高な方の車夫は梶棒を握り直し、片手で襟にかけた手拭をひっぱると皺の深い顔をめぐった。

「ばかに家数（いへかず）が減っちゃいましたね。岡倉さん、ひとつあそこいらに立つてる内儀さんにでも、訊いておくんないよ」

青年を眼をやると、なるほどそここの樹の陰や物陰に女や子供がいて、怪訝そうな眼をこちらに向けていた。彼は苦笑し、近くで洗濯物を干している主婦の方へ歩みよった。

車上の西洋人は碧い眼で周囲の林を見まわしていた。山高帽を冠った男で、歳の頃三十ばかり、気が強そうに上を向いた鼻、髭を立てた自信ありげな口許。頬骨の高い削いだような容貌は知性を窺わせたが、茶色の睫毛が落着きなく始終またいたっていた。

岡倉と呼ばれた青年は間もなく駆け戻った。

「金蔵さん、少し来過ぎたよ。ずっと手前に荒物屋があるそうだ。その親爺が絵師だというから、間違いないな」

「ようがす。オイ、戻ろう」



車夫は若い相棒に声をかけ、梶棒を握った。青年が車上へ声を高め、英語で説明する。西洋人は鷹揚に頷き、青年に愛想よく片眼をつむって見せた。

先刻前を通った時には雨戸でも閉っていたものか、青い豆畑と隣合せにそれらしい店があいていた。低い軒を表へ差しかけ、板敷の上に土釜・七輪・箆・茶碗といった品を並べている。軒に吊した五、六足の草鞋の緒に、畑から伸びた豆の蔓がしなやかに絡んでいた。

母家はひっそり障子をとぎしている。羽目板には古い扁額が掛けられ、墨の跡が蝸牛庵と読めた。

岡倉はそれを眺め、目顔でここだと連れに知らせる。西洋人は車を降り帽子を直すと言筋をのべた。

「ご免下され」

青年が障子の前に寄って声をかける。奥から遠い声が応じ、四十ぐらいの女が手を拭きながら、草履をはいて出てきた。

「いらつしやい。何を差上げますか？」

「いえ、買物ではありません。狩野芳崖先生にお目通りがしたくて伺った者です」

「あ、そう……はい」

妻女と見えるその女は、西洋人に眼を合わせると冠り物を取り、首をすくめて家の中へ駆け込んだ。開いた障子の奥に男の姿が見えた。

画布へ屈みこんでいるその男が顔をあげた。妻女の囁きに筆をおくと、老眼鏡の上から射すような眼差しを外に向けた。

「芳崖先生でございましょうか」

岡倉はそれに近寄って腰を屈めた。

しかし男は応えず、無言で外の二人を見詰めていた。寝た顔で、肩の骨が突き出ている。六十を過ぎたと見える厳しい面差しは、武辺者に見るような近寄りにくいものだった。

「何の用かは知らぬが、毛唐人などに用はない。さっさと行つてくれ」

低い声でにべもなく言った。

「お待ち下さい……そんなふうには仰言らず、話をきいて下さい。確かに連れは西洋人に相違ありません。しかし、この方は東京大学のお雇教師でフェノロサ教授と申し、近頃は文部省の図画取調係もなさっている、日本画には随分と精しい人なのです。ぜひ先生にお話申したい趣きがあつて伺つたのです」

西洋人が帽子をとって前に出た。

「アーネスト・フェノロサ。ヨロシク」

絵師はそれを白い眼で眺め、唇をきつと結んでいる。青年があわてて続けた。

「フェノロサ教授は過日、官の出張が戻られた足で、上野の絵画共進会へ參觀にゆかれました。そこで先生のお作（桜下勇駒）という絵に接して大層感銘され、一度先生に逢つて年来の希望を話し、ご協力を頂きたいと、こうして今朝早く本郷からわざわざ見えられたのです」
岡倉は喋り終ると額の汗をふいた。絵師は肩の先で噛み、筆を執り上げた。

「どこから来ようと、それはそっちの勝手だ。話などして見たとて所詮は無益、わしにそんな暇はない」

言い捨てると再び画布へ屈みこんだ。後ろに坐つた妻女が、氣を揉んでいる表情で夫の背をそとつついた。

岡倉は懷中へ手を入れ、巻紙を取出すとフェノロサ教授に示した。西洋人が肯いた。

「先生これをご被見下さい。狩野友信どのから頂いてきた紹介状ですが……」

岡倉は恐る恐るそれを絵師に差出した。絵師は訝しげに眉をよせ、老眼鏡をかけ直した。

「浜町からの紹介だ……？」

つぶやきながら表裏を改め、封を切つて文面を眼で追つた。

外は暑くなつていた。近くで小鳥の音がする。客二人は日向に立つて汗をふいた。

やがて、絵師は手紙を巻戻しながら妻に言った。

「仕方があるまいのう。ヨシ、汚い所だが上って貰ってくれ」

妻女は夫の肩に手をかけて立上り、外の二人を笑顔で招いた。

画室の十二畳間は明るかった。絵具箆が二つ、仮張りが二丁置かれ、その辺りはきれいに片付いていたが、絵師の坐っていた周囲はひどく散らかっていた。胡粉の袋や膠の束、顔料の塗り鉢・壺・皿で足の踏み場がない。絵師と妻がそこへ客の坐る場所を作ろうと片付け始めた。

客二人は座敷の入口に立って、見るともなく家の中を見まわした。静かで、夫婦のほか無人のようであった。これと言った家具もない、洗うような貧しさに見えたが、隅々まで清潔に掃き清められていた。

「さ、片付いたぞ。そっちの座布団へ坐ってくれ」

家の主は先に坐りこんで、手をのばすと縁側の障子を少しあげた。

強い膠の臭いがする座敷へ、二人の客は足を踏み入れた。フェノロサは窮屈そうに足を折り、盛上った膝の上で山高帽を抱えている。妻女はそれへ笑顔を見せ、台所へ立っていった。

「わしが芳崖だ」

絵師は無愛想に言った。

青年は畳に手をつかえ、

「申し遅れました。私は岡倉覚三と申す若輩で、四年前、フェノロサ教授のご薫陶を得てどうやら東京大学を卒業させて頂き、唯今は文部省のご用係に奉職致しております。本日は先生と教授のお話に、通辯のお役に立ちたいと存じまして参上致しました」

「そうか、ご苦労なことだ」

芳崖はそれぎり口をつぐんだ。取りつく島のない客二人は、眼のやり場のないまま、座敷の壁にかけられた何枚かの画布に眼をやった。

芳崖が咳払いをした。

「あれはどうだ？ いづれも下絵で、弟子達に写させるために取っておいたのだが」

武者絵にあごをしゃくって言う。

フェノロサが小声で岡倉に囁くと、岡倉が即座にそれを日本語に直した。

「絵巻物の下絵と見受けられるが、と申しております。」

「うむ。これは六枚絵続きの犬追物の図でな、先年陛下がご来臨下さった記念にということで、島津公爵から依頼された仕事だ。ここに残っているのは謂わば習作だ。二年かかって大方は仕上げて納めたが、まだ流鏑馬の図が出来ていない。いまやっているところなのだが……見てくれ」

芳崖は描きかけた画布へ立ってゆき、濡れている画幅を二人の前へひろげた。

図柄は綾蘭笠あやうらがさに行膝装束ひざばさの若武者が鞍上で重藤の弓を引絞り、まさに鎗矢やぶやを射放さんとしている。

芳崖がそれに説明を加える。

「構図もさることながら、これは似せ絵でな、天覧の競技に出た者の面をそのまま写せという註文なのだ」

フェノロサは首を傾け熱心に見いつていたが、静かに口をひらいた。岡倉が代弁する。

「あたかも古人の絵に接する思いがする。……狩野派の絵とはいえ大和絵にも近い。特に馬の動きがすばらしい。かように言っております」

芳崖は絵を見ながらあごを撫でた。

「この人は馬の絵が好みと見える。共進会へ出した馬も褒めてくれたというが、一体あの絵のどこが気に入ったのだ。賞にも入らず、新聞でも不評判だったが」

岡倉がそれを通じると、フェノロサは唇をなめ、大きな眼で芳崖を見詰めて話す。

芳崖は奇妙な物を見るように眺めていたが、岡倉に訊ねた。

「何と言っているのだ」

「はい。……自分は世評などに興味はない。先生の絵が

正当に評価されないのは、畢竟、共進会の審査員や新聞記者など、観者の側に見識がないからだ。そう言っておきます」

芳崖は声なく笑った。

「この異人どの、少しは絵が判るようだ。……東京日々新聞の評を読んだかどうか聞いて見てくれ。こう書いておった。(馬丁の目は面白いが、馬が肥えすぎ、馬鈴薯に足が生えた如くだ)……山水の方はもっとひどかった。(雪中の山水は松ヒヨロリとして、千住葱を押立てたる趣きなり)……絵というものは、人によって面白い見方があるものだ、こないだも友人の雅邦と笑ったのだ」岡倉は苦笑し、上気した顔でそれを流暢な英語に直してゆく。フェノロサも頬を紅潮させていた。碧い眼を動かし、低い声で喋ってゆく。

「教授は展覧場で、金賞、銀賞、銅賞の作品をはじめ、文人画を除いたすべての画幅に目を通されましたが、これと言って見るべき作品に出逢わなかったそうです。四

百年の伝統ある狩野派の絵さえ、遂に古画の模倣から脱し得ず、やがては衰滅してしまうのだからかと絶望しかけた時、ふと隅に置かれた表装されない二幀の絵に目がとまり、思わず声を出してしまったと言います。「雪山の暮溪」という絵は、無音で静謐な気韻が心をひき締めるように感じられ、「桜下勇駒」と題された方は殊に素晴らしいかった。意匠がきわめて新しい上に、筆力はまさに勇健、画中の馬がいまにも紙本の外へ跳び出さんばかり。……教授は日本画壇の中で、初めて達人に出遭った喜びに躍り上がられたそうです」

芳崖は腕を組んで聞いていたが、急に咳こんだ。浅い、力のない咳がしつこく続いた。

岡倉は心配そうに見ていたが、咳が止まるとまた口をひらいた。

「……丁度そこへ、共進会の役員が通りかかったので教授は呼びとめられ、その二幅が誰の作かを訊ねられました。するとその役員は……ええと、どうもこれを先生の



前で申上げるのは大変無礼なのですが……」

岡倉は片手で髪をなで、困ったような笑いを見せた。

「何だか知らぬが、言いかけてやめられては、こちらの気分がよくない。なんなり言ってみてくれ」

芳崖も苦笑して言った。

「はい。……ええと、その役員は絵を見て、（狩野芳崖か。これは長門の田舎から出てきた気狂い親爺ですよ。なに、大した絵じやありません）そう言ったそうです。

教授はその役員に（君達は絵について何一つ知っていない）と答えられ、直ぐさま共進会の事務局へいって、あの二幀は少くとも二等賞にはすべき絵だと、主張されたのです。……教授は前回の共進会に審査員をなさっております、役員の間でも意見が尊重されています」

芳崖は腕組みをとりて苦く笑った。

「なるほど。実はな、後になってあの絵に褒状をよこした。どうも解せぬことだと思っていたが、それで納得がいった」

言いながらまた咳込み、今度は容易に止まらない様子だった。

「先生、大丈夫ですか？」

岡倉はあわて、芳崖を覗きこむ。フェノロサは厨の方に向って声を挙げた。

「なに、心配はいらぬ。……いつものことだ」

身を屈め、芳崖は咳にむせながら言った。

台所からとんできた妻女が、茶道具をそれへ置くと夫の背をなでた。

「じきに止まる。ヨシ、菓をたのむ」

妻女は身を翻して厨へ走った。芳崖は懷中から白い手布を出して口を覆った。手巾の外へ赤い色が滲み出た。

台所から妻女のヨシが湯呑茶碗を運んでくると、ひどい大蒜の臭いが座敷の中に立ちこめた。二人の客は覺えず眉をひそめた。

芳崖はそれを呑みこみ、しばらく眼をつむっていたが、咳が止まると笑って、大儀そうな声で言った。

「大抵の者がこの臭いを嫌う。なれてしまえば何のことはないのだが……大蒜は何の病いにも効く薬だ。わしはその畑で沢山作っている」

肩で息をつき、残りの菓に口をつけた。

「わしに何の相談があるのか知らぬが、その前に聞いておきたいことがある。……その異人どのは、中橋のご宗家から名を許されていると、この書状にあったが……」

フェノロサは芳崖の言った言葉の意味が判るらしく、ゆっくり頷いて見せ、日本語で答えた。

「カノー・エイタン。ナマエイタダキマシタ」

「ほう。それは大したものだ。で、えいたんどの絵を描かれるのかな？」

わきで聞いていた妻女も、好奇の目でフェノロサを見守っている。

今度は判らぬらしく、首を傾けて岡倉を見返えるフェノロサに代って、岡倉が、

「いえ、狩野永探という名は、日本画鑑定のためのものです。……教授は故国アメリカで大学を卒業された後、ボストンの美術学校で油絵の技法を習得されました。しかし日本へ赴任せられて狩野派の絵に出遭い、すこぶる感動なさったのです。以来今年でまる六年間、教授は中橋ご宗家と浜町の狩野友信さんの指導の下に、古画の真筆・粉本のことごとく研究なされ、絵の長短雅俗を見きわめられるようになり、近頃ようやく鑑定を許されるようになったのです。更に教授は今日まで伝っている和漢の鑑定書を私共の翻訳で殆んど読破なされました。その上、巷に投げ出されている古画の名品が痛ましいと、可成りの画幅を買い集められ、その保存研究にも力を注いでおられます」

芳崖は無言で頷き、菓の湯呑茶碗の中をのぞきこんでいたが、

「して、わしへの用向きと言うのは？」

客二人は緊張した面持ちで小声を交した。やがて岡倉が頷き、顔を上げた。

（つつく）